

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年10月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174200764
法人名	悠馬エンタープライズ株式会社
事業所名	グループホーム らんらん倶楽部
所在地	〒367-0243 埼玉県児玉郡神川町熊野堂2578 (電話) 0495-74-2323

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年10月22日

## 【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 7人, 非常勤 9 人, 常勤換算	13 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造耐火造り
	1階建ての1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000円 )	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり 1,000円				

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	富永クリニック、佐藤歯科
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、住宅街の一角にある洋風の洒落た平屋建ての建物である。太い梁を見せ、天窓のある作りで、共用の場所はゆったりとして健康的である。広い芝生、木立に囲まれて季節の変化を楽しむことができ、また野菜を自給自足しており、旬の食材が食卓に載る。五感に適度に働きかけるケアによる居心地の良さがここにはある。職員は利用者を自分の父母、祖父母と想って、心の通った介護を提供している。質の高い介護を目指して、職員への介護技術の教育がなされ、また独自の離職防止策を採用し、離職は少ない。多機能性を活かした支援も幅広く、他の事業所では受け入れてもらえないケースでも、専門医と連携しながら支援しているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議の開催にあたっては、議題に苦勞し双方向の意見交換等困難が生じている面がある。かかりつけ医の決定については、入所時に利用者や家族と話し合って希望に沿っており、必要に応じて訪問診療の医師に紹介状を書いてもらい、専門医を受診している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>これまでに実施した評価について、朝礼やカンファレンスで改善に向けた話し合いの場を持つようにし、前回の外部評価の結果を受けて今回の自己評価につなげている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族や地域代表等の参加を得た運営推進会議が、これまでに3回開催されている。会議ではホームの概要や行事予定、活動報告等を議題とし、今年開催した会議ではグループホームの食事について話し合った。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>地域密着型になって近隣地域の利用者が大多数を占め、少なくとも月1回は家族と話し、現状を報告するとともに、意見や要望があれば直接伺い解決している。また、会えない家族には、利用者の状況を手紙に書き、写真を添えて送付している。なお、緊急時は電話等で随時連絡をとっている。また、運営に関する意見や苦情については、事業所以外の外部にも表せる機会や場があることを契約書に載せ、利用者及び家族によく説明している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>今年、隣接地に畑を増設した。野菜の自給自足の生活は、利用者の食や心を豊かにするばかりでなく、近隣の人々にトラクターで耕してもらったり、作物のおすそ分けをする等、地域との関わりを深めている。また、清掃活動への協力、年間行事への参加もしている。保育園児をホームの行事に招いたり、小中学生の体験学習を受け入れたりしながら地域との連携に努めている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者にとってホームが家庭・家族となるために、心の通った介護を提供することを目指した事業所独自の理念のもと、利用者が地域の人々や自然とふれあいながら普通の生活を送ることができるように支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング時に、職員が毎日順番に理念を唱え、管理者と職員が心をつにしている。この理念は職員の心の核になっており、心穏やかに、感謝の気持ちを持って、懐の広いホーム作りに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	野菜のおすそ分けなどの近隣の付き合いに始まり、清掃活動への協力、年間行事へ参加しながら交流を図っている。また、保育園児、小中学生との交流があるほか、認知症高齢者を抱える家族の相談に乗ったりすることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価の結果について朝礼やカンファレンスの場で話し合っている。評価で課題に挙げられた項目についても検討し改善に取り組んでおり、第三者の視点を大切に捉え、評価をケアの向上に役立てたい意向である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はこれまでに3回開催されている。会議では家族や地域代表等の参加を得て、ホームの概要や行事予定、活動報告等が主な議題として取り上げられている。また、今年の開催時には、グループホームの食事について話し合った。		運営推進会議は地域の理解と支援を得るための貴重な機会であるため、幅広い立場の方からの意見を活かし、定期的開催することで、より充実した意見交換がなされることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入退所や感染症を含む事故報告等を定期的に行っている。また、対応困難な事例については助言をもらうなど、市との連携を図っている。なお、月1回開かれるケアマネージャー会議では、地域包括支援センターの職員と情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	近隣地域の利用者が大多数を占め、少なくとも月1回は家族と話し、現状を報告している。また、会えない家族には近況を書いた手紙に写真を添えて、金銭管理報告と一緒に送付している。また、緊急時は電話等で連絡を密にとっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書の重要事項説明書に苦情の受付を明記し、利用者及び家族によく説明している。殆どは家族の面会時に意見や要望を直接伺い、表出された内容を反映できるよう対応に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の人選に際し、子育て終了者と時間制約の少ない方との構成バランスをとることで、離職防止を図っている。また、試用期間3か月経過後も、トレーニング期間を長くとり、質の高い介護力を持った人材の確保に努めている。やむを得ない異動時は、利用者と家族に説明し、理解を得ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修としては、認知症介護の改善事項がある場合には休みの職員も招集し、夜勤帯の時間を使って、管理者及びホーム長が、実践してみせてくれる。外部研修については、立場に応じて、勤務の時間あるいはシフト作成時に希望休を入れて参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県単位で行われているグループホーム連絡協議会は、会場が遠方になることが多いため、同業者のいる群馬県の方から情報をもらうことが多い。市町村のケアマネージャー連絡協議会や事業所の会議にも参加し、情報を交換して交流を深めているほか、他法人の事業所との相互訪問等も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず入居する部屋に案内し、イメージを作ってもらっている。見学や質問には何度でも応じ、その間に、声かけや対話、気分転換、昔慣れ親しんだ体験への働きかけを行っている。準備期間が少ない場合、家族に毎日立ち寄りてもらったり、工夫を重ねながら徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として学ぶことが多い。手打ちうどんや野菜の種まき時期等を利用者から教えてもらっている。ホームではのどかなひと時が流れ、職員は喜怒哀楽を表現できる環境づくりに力を入れており、利用者と共に感じながら支えあう関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居する前に、家族やケアマネージャー、医療機関等から情報を集めておくが、入居後も本人の思いや意向の把握に努めている。近年になり、家族背景の変化から独居の方の入居が多くなった。家族が思っていた以上に認知症が進行していることがあり、入居してから具体的に意向の把握となるケースが出てきている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望を取り入れるとともに、家族の意向も伺っている。さらに、その人らしい生活を続けるために、一番大切にしていることを重点的に、介護計画の中に組み入れ、本人の「自由」というライフスタイルを大切にしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月、6か月ごとに計画を見直し、変化時にはそのつど計画を立て直している。毎日のケース記録に、一人ひとりについて日勤と夜勤の職員が詳細に記録をつけ、変化を知る手がかりとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容等、利用者の希望に応じた支援を行っている。また、胃瘻処置をしている方、処遇の困難なケースの方についても、専門医と連携しながら支援しており、医療連携体制を活かした取り組みや経済状況に考慮した対応がなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望で、入所前の医療機関に継続受診している方もおられるが、多くは、2週間に1回、地域の協力医の往診を受けており、必要に応じて紹介状をもらい、専門医を受診する形をとっている。また、歯科医師が週2回訪問し、入れ歯や口腔の管理をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時、ホームとして対応できること、できないことを説明し、同意を得ている。早期に話し合いを行うことで方針の共有につながっている。看取りの経験があるが、訪問医師の判断を仰ぎながら対応している。看護師は週2回、日勤帯に主に処置にあたり、検査結果等も含めた総合判断を下している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護の実践の中では、声のかけ方に特に気を配っている。入職の面接時には守秘義務を謳い捺印しており、個人情報に関する書類については鍵をかけて保管している。また、異動してからも情報を他に漏らさないよう、カンファレンスの時に話している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所前の生活を把握し、それを基に質問や声かけをしながら良い関係を築くよう心がけている。また、利用者のペースを大切にしており、閉鎖的にならないよう希望に沿って買い物や外食にも出かけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は普段の食事やおやつ作り等の手伝い、また能力に応じて片付け等できることを率先して行っている。また、職員も利用者の様子をみながら同じものを一緒に食べ、皆との会話を楽しみながら食事の時間を過ごしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきに、午前10時30分から12時までの間で入浴している。それ以降でも、職員の体制によっては利用者の希望にあわせて入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味、嗜好等にあわせ、本人が主体となるように支援している。また、利用者には得意分野で力を活かしてもらい、おやつ作りや手打ちうどん、バーベキュー等で活躍してもらうなど、日常的に一人ひとりが役割を発揮できる取り組みをたくさん設けている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	悪天候でない限り戸外に出かける支援をしている。近隣の小学生が体験授業として訪れ、利用者と一緒に散歩に出かけることもある。隣接地に増設した畑では野菜を作り、利用者には生長の過程を楽しんでもらったり収穫をしている。また、希望に応じてドライブや買い物、外食にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外玄関は開けているが、中扉を閉めている。リビングからデッキに出れば庭にも下りることができ、自由に行き来することが可能である。また、散歩に行く習慣があるため、近所の人も利用者の顔を覚えていてくれる関係にある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の指導のもと避難訓練を事業所主体で行っている。避難経路や場所も決まっており、タイムを測っている。救急救命の講習については全職員が受けており、今後はスプリンクラーを入れる予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立を立てている。一部の職員が代表して栄養指導を受けており、摂取量の制限等利用者の状態に合わせて対応している。食事の摂取量は10段階評価で、また水分量は記録集計し、おおよそ把握するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	太い梁を見せた居間には天窓があり、天井に扇風機を廻して、健康で快適な室環境となっている。トイレは広く、便器に背もたれをつけるなど斬新な工夫もみられる。風呂にはADLにより数人一緒に入れる大きな浴槽も備えている。建物を囲む自然が季節によって移ろい、居心地のよい空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	6畳間ほどの居室は南に面し、窓からは自然が眺められる。利用者は整理ダンスを置いたり収納ケースを重ねて、使い慣れた品や大切にしている品を持ち込んでいる。また、趣味の作品を飾るなどして、居心地のよい落ち着いた場所になっている。		